

【田園と都市が隣接する市民農園】～福岡県那珂川町～

1 市民農園名

地蔵の里ファーム(那珂川町仲 炭焼地区)

2 地区の概要

那珂川町炭焼地区は、古来より裂田溝(疎水百選)の人口水路を利用した水田地帯となっている。田園部の北側は市街地と隣接するなど、住宅地帯が広がるが、西、南側は背振山地を正面に見据える自然豊かな地域である。町内中心部からのアクセスも良好となっている。



地蔵の里ファーム

水田農業が中心であるが、新規就農者によるレタスやスイートコーンの作付けも広がりつつある。

3 市民農園開設の経緯

平成23年前後から、町内で市民農園開設の要望が増えつつあった。

このため、平成24年から市民農園開設者を支援する町単独事業が予算措置され、毎年1農園の開設を目指すこととされた。

本農園開設者の佐伯久典氏は、退職後に農事組合の組合長を務めていたが、事業予算措置に伴い町から農園開設の声かけがあり、退職を機に何かチャレンジしたいとの思いもあったことから、同年には事業活用の申込みを行い、平成24年7月には開設に至った。



取材に応じていただいた
開設者の佐伯さん

町内初の開設であったため、農園利用規程の雛形が示されるなど、町からの支援も行われた。

4 施設概要

- 所在地 那珂川町仲218-1、220-1
- 施設総面積 1,884㎡
- 区画面積 1区画当たり 30㎡
- 区画数 51区画
- 利用料金 5,000円/年間
- その他

水道は設置されていないが、農園のすぐそばに裂田水路があり、そこで水を汲んで利用することが出来る。



イチゴの栽培区画

5 管理・運営等

管理運営主体：地蔵の里ファーム(個人)

6 農園の特徴

- 初めて野菜作りに挑戦する利用者に対して、土作り、肥料、堆肥、マルチ張り等のサポートを行っている。移植ごとと苗さえあれば、野菜作りを楽しく始めることが出来る。
- 管理人自ら野菜作り指導のために農業塾に通い、研鑽に務めている。
- 開設者の方針により、野菜作りは有機肥料、減農薬栽培を進めている。その一環として木枠コンポストを農園内に設置し、出来た堆肥を活用した野菜作りが行われている。
- 利用者は比較的近隣の住民が多く、利用者に親しんでもらえるよう、農園の状況やお知らせを掲示板で行っている。
- 管理人が農園の近くに田を所有しており、農作業の傍ら常に農園の状況を把握し、農園管理に配慮している。良好に維持管理されていることもあり、散歩中の人から農園利用の相談が来ることもある。
- 都市近郊の市民農園の中には残渣の発生等による悪臭のため、近隣から苦情が来ることもあるが、農園内にコンポストが設置されていることもあり、このような苦情は発生していない。
- ビニール袋等のゴミは利用者に持ち帰ってもらうよう、農園利用規約に

規定されている。



園内に設置される木製コンポスト



近隣を流れる裂田水路

7 イベント・交流活動等

- 年2回、町環境課と共同でコンポスト講座を農園内で行っている。内容はぼかし堆肥の作り方や木枠コンポスト利用方法等である。参加料は無料となっている。
- 当初、収穫祭等を考えていたが、利用者が多く場所の確保に課題があること、利用者間での交流が進んでいること等により、実施には至っていない。

8 施設設置効果

- 利用者の中には、農園で栽培したイチゴの苗を他の利用者に配布するなど、地元利用者の交流や情報交換により、利用者同士の交流促進に寄与している。

9 今後の課題・問題点等

- 個人で運営されているため、農繁期は野菜作りの指導や管理に手が回らない場合がある。
- 木枠コンポストを設置し、残渣を利用することで、ゴミの減量、再利用を図っている。しかし、コンポストの中に、マルチ・プラ・野菜の大きな枝が捨てられたりもしている。コンポストの使い方を理解していなかったり、そこでできた堆肥の活用していない利用者もいる。
50人に上る農園利用者への伝達方法の工夫が必要である。

【問い合わせ先】

那珂川町役場産業課農政担当 電話 092-953-2211

(内線453・454)

<https://www.town.fukuoka-nakagawa.lg.jp/soshiki/15/shiminnouennjyouhou.html>